



新年の御挨拶

静岡県中小企業団体中央会
会長 山内致雄

明けましておめでとうございます。

昨年から続くコロナ禍により、私共中小企業は非常に厳しい状況の中で、新年を迎えることとなりましたが、皆様に於かれましては、災禍克服に向け、例年にも増して意欲に満ち溢れた新年をお迎えのことと拝察申し上げます。

世界規模で発生した新型コロナウイルスの感染拡大は、私共中小企業にとっても大きなダメージを与え、年が明けた今も、復興・復旧に向けた努力が続いております。

また、コロナ禍は経営スタイルの転換という新たな課題を生み、とりわけデジタル化へ向けた設備導入など、中小企業の事業活動における新しいツールとしてデジタル化は進んでおります。中小企業組合に於いても、ウェブ会議やウェビナーなど、新しい手法として活用され始めております。

こうした状況の中、本会では昨年より、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、中小企業のデジタル化を目指した事業を展開しております。

また、組合による新事業分野開拓、中小企業の生産性向上に繋がるものづくり補助金のほか、多様な人材の活躍に向けた支援、働き方改革への対応、事業承継支援、BCP策定支援など、人材の確保・定着・育成や事業継続のための各種支援を注力すべき重点施策として事業を強化して参ります。会員組合の皆様には、こうした本会の各種支援策を積極的にご活用いただくと共に、傘下組合員各位への普及啓発のご協力をいただければ幸甚です。

本年の干支は辛丑であります。牛は古くから酪農や農業で人々を支えてきた身近な生き物であり、その働きぶりから、粘り強さや誠実さ、勤勉さを感じ取ることができます。それは日本人の仕事に対する誠実な

姿勢や勤勉な態度とも共通しているのではないのでしょうか。

また、「丑」は「紐」という漢字にも使われていることから、丑年には何かを結びつける、繋ぐ、掴み取るという意味が含まれます。

この難局を乗り越え、強固な事業体制を築くためには、この文字の如く、連携による協働をさらに強化していくことが肝要であり、中小企業、組合、関係機関が手を携え、牛の堅実な歩みのように、着実に一步ずつ努力を重ねていくことが重要であると考えます。

中央会役職員一同、中小企業・組合各位が大いなる飛躍の年を迎えられますよう、新年の決意も新たに業務に邁進することをお誓い申し上げます。

結びに、日本経済を覆う先行きの不透明感が払拭され、本年が皆様にとりまして、希望に溢れる一年となりますよう心よりご祈念申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。

令和三年元旦

静岡県中小企業団体中央会
会長 山内致雄